

抑制ミニトマト用台木の新品種 ‘TTM-127’

1 新しい品種の内容

(1) 背景・目的

ミニトマト抑制作型では青枯病をはじめとする土壌病害の発生により生産が不安定となりやすい。産地では耐病性台木の‘キャディ1号’（トキタ種苗）が用いられ、青枯病多発ほ場ではより耐病性の強い‘がんばる根ベクト’（愛三種苗）が用いられているが、両品種とも耐病性または収量性の観点から課題がある。

そこで、複合耐病性を有する台木の中から、穂木品種‘サンチェリーピュア’（トキタ種苗）を対象に比較検討した結果、耐病性および収量性の高い‘TTM-127’（タキイ種苗）を有望品種として選定したので、その特性を紹介する。

(2) ‘TTM-127’ の特性

- 1) 草勢は全期間を通して‘がんばる根ベクト’より強く、‘キャディ1号’と同等である。
- 2) 収量は‘がんばる根ベクト’より多く、‘キャディ1号’と同等である。
- 3) 青枯病に対する耐病性は‘キャディ1号’より明らかに強く、‘がんばる根ベクト’よりやや強い。
- 4) ‘TTM-127’は穂木の草勢が強く多収が期待でき、青枯病耐病性も高いことから、慣行台木の代替品種として有望と考えられる。

2 試験成果の概要

- (1) 2018年及び2019年の5月下旬に穂木及び台木をは種し、6月中旬にピン接ぎ法により接木を行い、7月上旬定植の抑制作型において、‘TTM-127’の栽培特性を調査した。対照品種として‘キャディ1号’（2018年、2019年）、‘がんばる根ベクト’（2018年）を供試し、穂木はいずれも‘サンチェリーピュア’とした。栽培管理は現地栽培基準に準じた。

(2) 生育

‘TTM-127’の定植苗の生育は、‘キャディ1号’と同等であった。‘がんばる根ベクト’は台木径が細く草丈も低かった（データ省略）。全期間を通して‘TTM-127’の草勢は‘キャディ1号’と同等であるのに対して、‘がんばる根ベクト’は特に8段目以降の茎が細くなり、最も草勢が弱かった（図1）。

(3) 収量

‘TTM-127’の総収量は‘キャディ1号’と同等で、‘がんばる根ベクト’は最も少なかった。秀品収量および規格別割合は品種間に有意差は認められなかった。（表1、図2）。

(4) 果実品質

‘TTM-127’の秀品率および障害果発生率は‘キャディ1号’および‘がんばる根ベクト’と同等であった。果実糖度は全期間を通して‘キャディ1号’と同等であった（表1、図3）。

(5) 青枯病耐病性

園芸試験場内の青枯病甚発生ほ場において‘キャディ1号’および‘がんばる根ベクト’との耐病性を比較した。その結果、発病株率は‘キャディ1号’が80%程度で甚発生であったが、‘TTM-127’は15%程度で甚発生ほ場でも低く抑えられた。‘がんばる根ベクト’は20%程度であった（図4）。

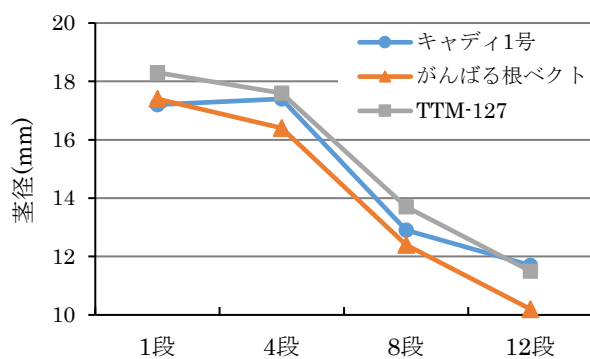


図1 段別茎径の推移(2018年)

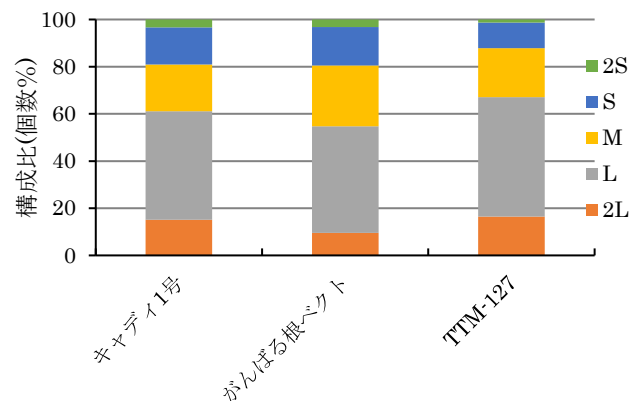


図2 規格別構成比(2018年)

表1 収量および障害果発生率(株あたり、2018年)

台木品種	総収量		秀品収量		秀品率 (%)	障害果率(%)		
	果数(個)	果重(g)	果数(個)	果重(g)		裂果	つやなし果	その他
キャディ1号	447.7	6201.2 ab	365.6	4995.7	80.6	2.6	15.2	0.5
がんばる根ベクト	431.5	5623.5 b	363.8	4722.7	84.0	1.0	14.2	0.4
TTM-127	453.0	6490.4 a	366.5	5255.8	81.0	2.8	15.9	0.4
分散分析	n.s.	*	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.

※秀品率および障害果率ともに総収穫個数に対する割合、その他にはチャック果、傷を含む

※分散分析: *は5%水準で有意差あり、n.s.は有意差なしを示す

※同一列内の異符号間には多重比較検定(Tukey-Kramer法)により5%水準で有意差があることを示す

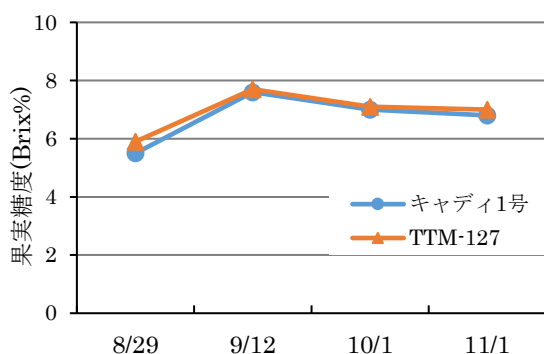


図3 果実糖度の推移(2019年)

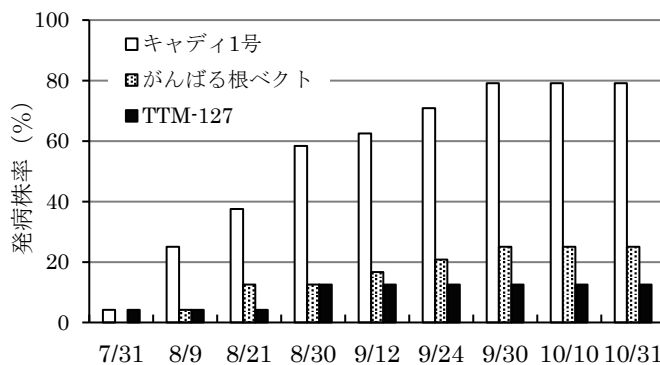


図4 トマト青枯病の発病推移(2019年)

3 普及の対象及び注意事項

(1) 普及の対象 県中部の抑制ミニトマト産地

(2) 注意事項

- 1) ‘サンチェリーピュア’を穂木とする場合、台木を1～2日早まきをすることで接木時の苗の生育が揃う。
- 2) 青枯病常発地で栽培する場合は土壌消毒の併用が望ましい。
- 3) 異なる穂木品種および作型での利用については事前に栽培試験を実施して適応性を判断する。
- 4) ‘TTM-127’は青枯病の他、TMV (Tm-2a)、褐色根腐病、根腐萎凋病、萎凋病(レース1～3)、半身萎凋病(レース1及び2)及びネマトーダに対する複合耐病性を持つ(メーカー資料より引用)。

4 試験担当者

野菜研究室	研究員	川口亜弓	環境研究室	主任研究員	田中陽子
	主任研究員	井上 浩*		研究員	松村和洋
	室長	森本康史		室長	中田 健
*現 弓浜砂丘地分場 主任研究員					